

南巽駅(地下鉄千日前線) 巽神社から田島神社へ

東部市場前駅(JR大和路線)

「大阪あそ歩マップ集」
その1 No.039



地下鉄南巽駅

① 巽神社

もとは、巽、大地の八幡宮と呼ばれた立派な神社でした。その歴史は不詳ですが、おそらく大地の集落ができた中世以前からあるものと思われます。明治40年(1907)の神社合祀令により、巽の四条、西足代、矢柄、伊賀ヶの各氏神とともに、大地の横野神社もここに合祀され、村名をとって新しく巽神社となりました。この神社の氏子地域は巽全域で、7月15日の夏祭と10月15日の秋祭には、大地や四条、矢柄など旧5カ村の4台の地車と、2台の布団太鼓台が曳き出され、大勢の見物人でたいへんな賑わいを見せます。



② 楠正長史跡公園

この場所は、河内国渋川郡四条村の氏神天神社の境内でした。室町時代の初期、大楠公(楠木正成)の孫といわれる楠正長という人が隠れ住んだ場所でもあります。正長はのちに本願寺六世の巧如上人に帰依し、名を定願と改めました。定願は一宇を建てて勤行し、一族の霊とともに村民を教化し、応仁2年(1468)に97歳でこの世を去りました。

③ 円徳寺

円徳寺は井原西鶴の『塙久一世の物語』に出てくる梶屋久右衛

門の剃髪した寺であり、梶屋が寄進した朱塗りの椀家具十人前がたくさんの宝物とともに残されています。

④ 横野神社跡地

横野神社は古くから印地の宮と呼ばれ、河内の大地村の西端にあり、摂津国東成郡田島との境に接していました。祭神は農耕の神・印色入日子命です。また、横野神社は延喜式内社で、河内国渋川郡六座のひとつです。かなり栄えた社であったようですが、江戸中期に一時荒廃しました。享保のころに、畿内の旧跡を調査した並河誠所が当地を訪れ、神社の由緒や土地に伝わる



古歌などを詳しく説明し、以後、穢れのないように庄屋にいい渡ししたそうです。また、この社地の付近は『日本書紀』仁徳紀に記された横野の堤のあった場所です。

⑤ 田島神社

摂津国東成郡田島村の氏神で、祭神は菅原道真公と少彦名命です。天満宮と呼ばれていましたが、明治42年(1909)に田島神社と改称されました。大正時代の中ごろまでは境内に太い杉の大木が何本もあって静かな神社でした。社記によれば、明治18年(1885)の淀川大洪水で古記録などが散失し、今は宝物として後陽成天皇宸筆の神号の軸と烏の餅杵一組があります。なお、境内には、田島レンズの元祖・石田太次郎翁の碑があります。田島は明治末年(1912)から昭和40年(1965)ごろまで地場産業としてレンズ生産が栄え、眼鏡レンズ発祥の地ともいわれています。一時は眼鏡用、光学用ともに日本一の生産量を誇っていました。

JR東部市場前駅

